

各業務：診療情報管理係

—概要—

2015年度は新たな体制のもと病院職員6名(診療情報管理士5名・事務員1名)が一丸となって病院内における課題に対処すべく次の業務に取り組んだ。

1. 診療記録に関する運用等管理
2. 紙診療録の保管運用等、病歴室の業務遂行における調整管理
3. スキャナ業務に関する管理
4. 診療記録の点検、監査、精度改善
5. 傷病名コーディング(国際疾病分類 ICD-10 に基づく)
6. 各統計作成と分析(国際疾病分類 ICD-10 に基づく)
7. 院内職員の診療情報等二次利用に対する支援
8. 患者に対する診療情報提供(カルテの開示)
9. DPC コーディングの適正化支援
10. DPC データ等を用いた分析及び報告
11. DPC 制度にかかる調査
12. 院内がん登録全国集計
13. 地域がん登録
14. 大阪府がん診療拠点病院に関連する業務
15. 新任職員への診療録等に関する研修
16. 傷病名マスタの管理
17. 電子サマリシステムの保守
18. クリニカルパスの運用支援
19. 災害時における診療録の作成
19. 診療情報管理委員会をはじめとした各委員会の事務局及び委員業務

—実績—

1. 退院症例における日々の診療記録点検
(退院症例数9,485件)
2. 院内がん登録全国集計に参加
2015年度登録症例数：971件
(府内942件・府外29件)
3. 地域がん登録
4. 傷病名マスタ管理：972件 更新
5. 各統計加工・分析：131件
6. 診療録開示対応(内容点検)：127件
7. 診療情報管理委員会事務局活動 抜粋
 - 1) 退院翌日から14日以内のサマリ記載率が90%以上維持するよう努めた

- 2) 診察時における診療録の出庫停止
- 3) 院内保管フィルムの整理
- 4) HI-UP 研修の実施調整
- 5) 診療録管理規程、診療録取扱いマニュアル、診療録入力マニュアルの改訂
- 6) 診療記録等保管スペースの整理
- 7) がん告知に関わる項目を問診票に追加及び運用調整
- 8) 病院様式同意書の作成
- 9) 事務連絡記録の作成
- 10) 病歴室スペースの検討
- 11) 泉州がん医療フォーラム参加
- 12) なすびんネット上でのサマリ公開の調整
- 13) 入院時間診票の調整
- 14) 臨時処方箋の電子化調整
- 15) 診療記録の発生源スキャン推進
- 16) 外部講師を招聘し診療録記載等の講演会の開催

—今年度の成果と反省点—

2015年度は、院内がん登録全国集計や泉州がんフォーラム等がん関連の業務に多く携わった。

診療記録等に対する課題においても活発に活動することができ、各統計加工や分析業務についても前年度と比較して約40%件数が増加したが、診療情報管理士の視点から行った分析内容や診療情報管理についての情報発信では受動的な姿勢が否めない点もあった。

—来年度への抱負—

2016年度は質の高い医療の裏付けとなる記録の充実化はもとより、今後は診療情報管理の専門家として、データベース解析や分析結果を用いた病院運営の支援を積極的に行いたいと考える。

まずは診療情報管理に関する情報や分析情報等の発信力強化、情報セキュリティの研修としてHI-UP研修を実施する次第である。